

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏失業率(2022年11月) —低失業率のなか雇用環境は一進一退

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

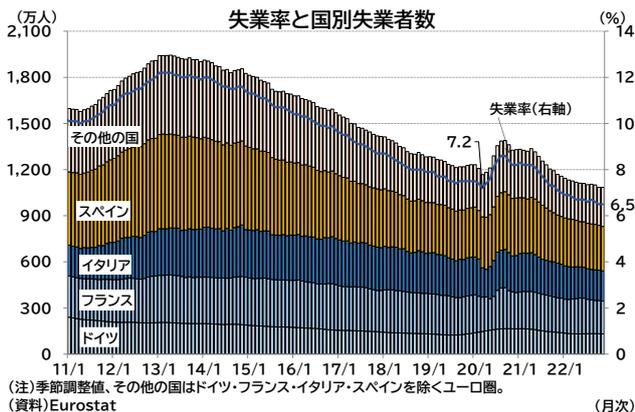
1. 結果の概要:失業率は6.5%で横ばい

1月9日、欧州委員会統計局（Eurostat）はユーロ圏の失業率を公表し、結果は以下の通りとなった。

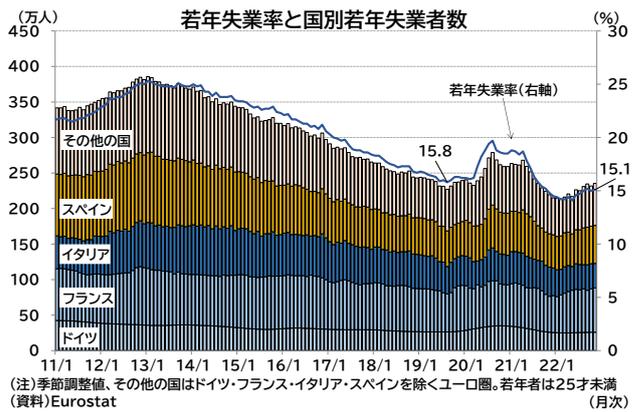
【ユーロ圏失業率（2022年11月、季節調整値）】

- ・失業率は6.5%、市場予想¹（6.5%）と同じで、前月（6.5%）から横ばいだった（図表1）
- ・失業者は1084.9万人となり、前月（1085.1万人）から0.2万人減少した

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細:低失業率のなか、雇用は一進一退の状況

ユーロ圏の22年11月の失業率は6.5%で、前月（6.5%）から横ばいで、統計データ公表以来の最低値が続いている。なお、10月以前のデータは改定値でほとんど修正されなかった。

失業者数は11月の前月差で0.2万人減となり、減少幅は10月（同15.2万人減）から縮小した（図表3・4）。主要国の失業者数は前月差でいずれも減少しており、減少幅が大きい順にフランス（▲2.4万人）、スペイン（▲2.3万人）、イタリア（▲1.6万人）、ドイツ（▲0.7万人）となった。

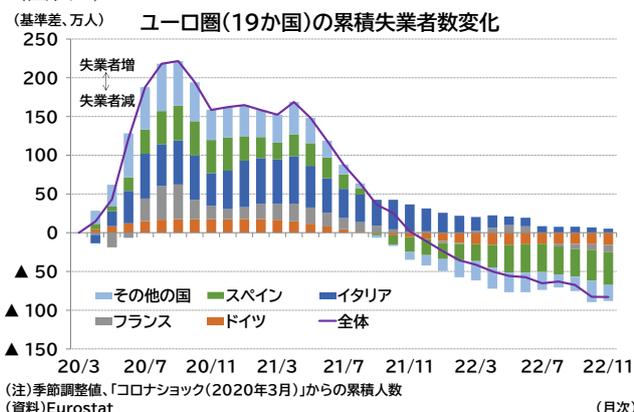
11月の若年失業率は15.1%となり、10月（15.0%）からやや増加した（図表2）。また、10月以前のデータも改定値でほとんど修正されなかった。若年失業率は22年5月（14.1%）をボトムに悪化傾向にある。

若年失業者数は11月で235.3万人（前月差+3.6万人）となり、10月（▲2.9万人）のマイナス

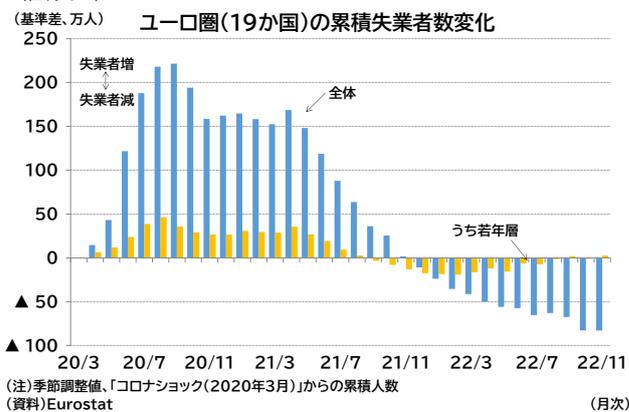
¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

からプラスに転じた（図表 4）。失業者数は、総数で見るとコロナショック直前（20年3月）を大幅に下回っているが、若年失業者はコロナショック直前をやや上回る水準となっている。

（図表 3）

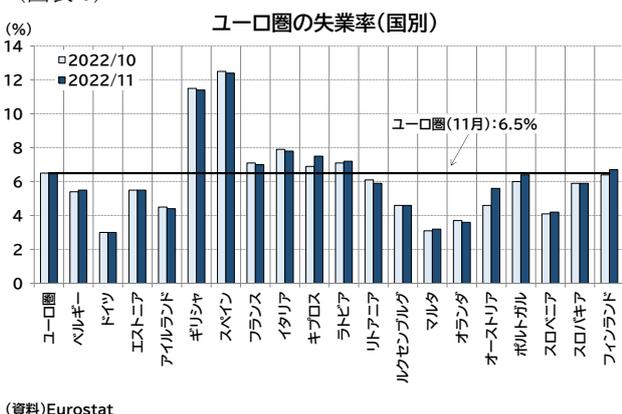


（図表 4）

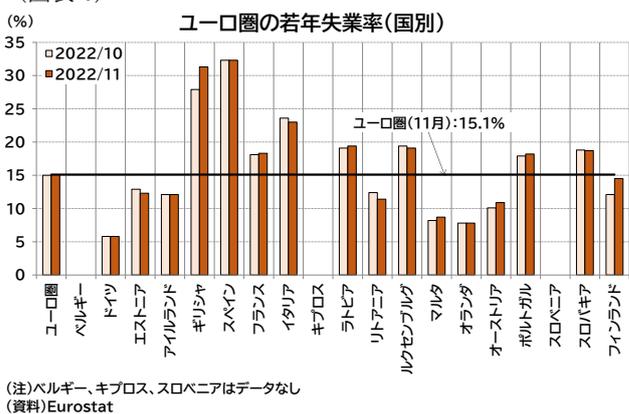


国別の11月のデータを見ると、失業率はデータが公表されている19か国中、悪化した国が8か国、改善が7か国、横ばいが4か国だった（図表 5）。また、若年失業率は公表されている16か国中、悪化した国が7か国、改善が5か国、横ばいが4か国だった（図表 6）。

（図表 5）

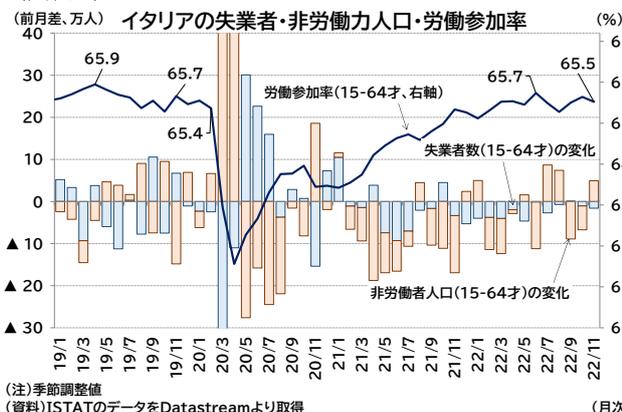


（図表 6）

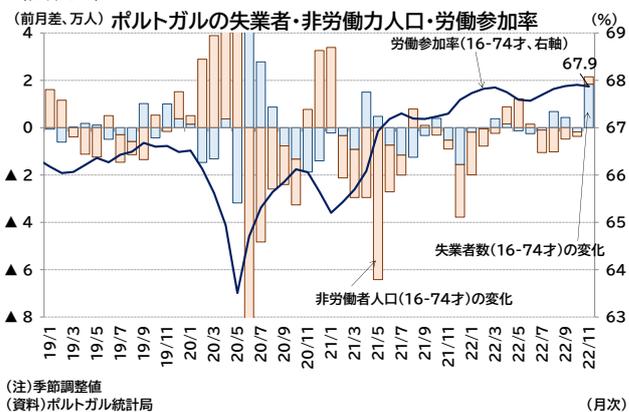


最後に詳細な月次データを公表しているイタリアとポルトガルについて確認すると、イタリアでは失業者が減少したものの、非労働力人口がそれ以上に増加し、就業者は減少した。その結果、労働参加率は65.5%に低下した（図表 7）。一方、ポルトガルでは失業者も非労働力人口も増加し、就業者数は低下した（図表 8）。総じて見ると、失業率が歴史的低水準にあるなか、雇用環境は一進一退という状況にあると見られる。

（図表 7）



（図表 8）



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。